



国際酪農連盟日本国内委員会

Japanese National Committee of International Dairy Federation



海野研一会長がジュディス・ブライアンス IDF 会長と面会

連盟事務局

2017年9月13日

2017年9月8日、海野研一 JIDF 会長は、夏の家族旅行で来日中であったジュディス・ブライアンス IDF 会長と都内のホテルで面会した。席上、ブライアンス会長は、「2016年、FAOはIDFと共同で、デーリーロッテルダム宣言に署名しました。その中で、FAOは乳の重要性を認めるとともに、IDFは継続的な改善を誓い、同宣言を実施する上での原理原則を明らかにしました。この宣言は、貧困や飢餓



の終結を目標に掲げた国連持続可能性開発目標（SDG）の達成に向けて、酪農乳業界が貢献できる枠組みとして機能します。その一方で環境保護のために責任ある消費と生産を促進します。多数のIDF会員国がデーリーロッテルダム宣言に署名しました。」と述べた。ブライアンス会長は、日本にも同宣言への参加を要望し、海野会長から、日本も署名する予定であることを紹介した。同氏は、この宣言は特定の義務を伴うものではないとした。

ブライアンス会長は、FAOがIDFと公式な関係を維持している背景として、IDFの会員国が世界の生乳生産量の75%をカバーしていることを強調した。一方、IDFはWHOとの公式な関係作りを進めているが、先行きは不透明であると述べた。

さらに同氏は、IDF活動を世界にアピールするために、IDFのコミュニケーション活動を強化する考えを示し、新しいタイプのニュースレターをまもなく発行する予定であると述べた。その一方で、IDF活動を強化するための資金が十分でないことを認識し、会費収入を増やすために、新しい会員国を募りたいと述べた。海野会長は、南米やアフリカ諸国の会員が少ないとし、同氏も同感であると述べた。新規会員の勧誘とコミュニケーション活動の強化策として、まもなくIDF本部の事務局体制を強化するとした。

10月に開催予定のベルファストサミットでの再会を約して、両会長は面会を終えた。

